

もっと!

ひとはく 2032

2022^{30th}
OPEN 1992

兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目
TEL:079-559-2001 (代表)
<https://www.hitohaku.jp/>
2022年10月発行 04教②-025B5



ひとはく将来ビジョン2032 [概要版]



はじめに

この冊子は、ひとはくの新たな「将来ビジョン」の概要を
わかりやすく、まとめたものです。

このビジョンには、今から10年後の2032年までにチャレンジしようと考えている
ひとはくの新たな活動・事業のアイデアが詰めこまれています。

これらのアイデアは、開館以降、研究員が地域みなさんと共に活動する中で
「大切だな」「必要な」「やってみたいな」と感じた
気づきの「結晶」です。

ひとりでも多くの方に、
「一緒にやってみたい」「楽しそう!」と思ってもらえたら
こんなにうれしいことはありません。

ひとはくは いつだって、 先へいく！

ひょうごの自然・環境・文化の多様性を守り、
育む社会を目指して

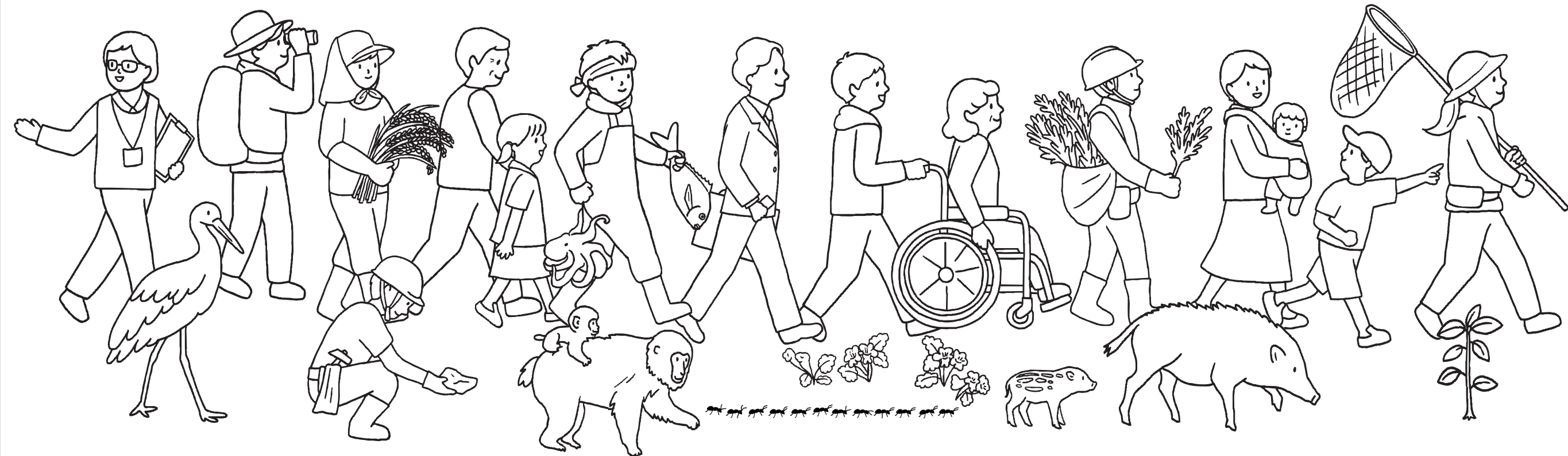
みんなと
一緒に

地域と
共に



ひょうご五国（摂津・播磨・但馬・丹波・淡路）には、
先人たちが長い時間をかけて育み、守ってきた
自然と環境、そして文化が息づいています。

それらが織りなす「人と自然の関係」を次代に伝え、残していくため、
ひとはくはこれまでの活動をふりかえり、さらに発展させながら
これからも、新たなチャレンジを続けます。



生涯学習支援

デジタル化社会？
だからこそ、「リアル」にこだわる！

デジタル化社会が進む中で軽視されがちな、「リアル」なモノ・コト・ヒトとの触れ合いに基づく多様な学びの機会を、ひとはくはすべての人に提供していきます。来館者や地域の方々のダイバーシティに配慮した、インクルーシブな学習支援サービスも充実させていきます。

これまでの主な取り組み

研究員



最新の研究成果をわかりやすく紹介
(ひとはくセミナー)

フロアスタッフ



遊びを通して学習意欲を刺激
(体験学習プログラム)

連携活動グループ



担い手と共に学びの輪を拡大
(NPO法人 人と自然の会の活動)

もっと！
ひとはく
チャレンジ

インクルーシブな
取り組みを推進



標本を活用して
学校教育を支援



取
り
今
組
後
の
例

- 本物との出会い・リアルな体験を通じた自然・科学への誘い
- 全ての人へ届ける、ダイバーシティ&インクルージョンに対応した取り組みの推進
- 標本・資料や身近な自然を活用した学習プログラム・学習教材の開発・実践とその利用促進に向けた情報発信
- 自然や生きものに対する意識や潜在的な興味関心を刺激する取り組みの充実

担い手育成

自然・環境・文化の多様性を
共に守る人材を育成！

地域の方々の活動のサポートに加え、共に目指す社会像を実現するために、「キャパシティビルディング」を考慮した担い手育成事業にも取り組んでいます。また中長期的な視点から、高校生・大学生向けプログラムも拡充していきます。

これまでの主な取り組み

発表の場



だれでも参加・発表可能な
場づくりで交流を促進
(共生のひろば)

研修の場



学校の先生の知識と技術を
アップデート
(教職員セミナー)

国際交流の場



異文化交流を通して
グローバルな人材を育成
(ボルネオジャングル体験スクール)

もっと！
ひとはく
チャレンジ

オンラインで高校生・
大学生の探求活動を支援



バックキャスト思考で
地域の担い手を育成



取
り
今
組
後
の
例

- キャパシティビルディングを考慮した担い手育成事業の推進
- オンラインも活用した高校生・大学生向けプログラムの拡充
- 社会人の学びを支援する実践力や専門性の向上を意識したプログラムの拡充

アウトリーチ

「地域」を熟知したヒト・施設と
さらにつながる！

地域の方々と協働して調査プロジェクトを実施したり、地元の自然や暮らしの知恵を体験できる県下の施設との連携事業を推進します。それらを通じ、学習支援の輪や地域づくりの取り組みが「より広く」「隅々まで」届けられる体制づくりを進めます。

これまでの主な取り組み

会場型



地域の会場施設で
展示やセミナーを実施
(ひとはくキャラバン)

トラック型



トラックに標本をつめこんだ
小さな展示会を各地で開催
(移動博物館車「ゆめはく」)

博物館連携型



歴史的建造物を会場に
全国の博物館と特別展を開催
(Where Culture Meets Nature 展)

もっと！
ひとはく
チャレンジ

担い手と共に
地域の自然を深掘り



パートナーと連携して
県立公園をフル活用



取
り
今
組
後
の
例

- 地域伴走型のアウトリーチ活動の展開
- 自然体験施設と連携したアウトリーチ活動の展開

シンクタンク

その問題、「起こる前」に
予測し、対応します！

地球環境問題の深刻化や人口減少社会が急速に進む中、
ひとはくはこれまでも、県政課題の解決をめざす「シンク
タンク」活動を行ってきました。今後は「将来起こりうる課題」
を予測し、ひょうごの自然・地域への被害を未然に防ぐこと
にも挑戦します。

これまでの主な取り組み

生物多様性保全



自然環境を保全し継承するための
戦略・計画の策定を支援
(生物多様性ひょうご戦略)

他施設の支援



県内の様々な教育研究施設の
設立・運営を支援
(県立有馬富士公園の運営支援)

地域づくり



地域住民と協働しながら
「みどりのまちづくり」を推進
(尼崎21世紀の森構想)

もっと！
ひとはく
チャレンジ

危機が起こる前に
その対策を考案・実施



SDGsやESGに
取り組む企業を支援



取
り
今
組
後
の
例

- 先取実践型シンクタンク— 県政・地域課題の解決への貢献
- 地域立脚型シンクタンク— 全県における自然・環境調査の再展開
- 企業支援シンクタンク— 経済・産業界を対象とした自然環境・自然科学セミナーの開催

研究

分野をまたいでつながった仲間と共に、課題解決を目指す！

現前にある県政課題は様々な問題が複雑に絡み合っており、一朝一夕には解決できません。今後は、学術領域の垣根を越えて研究者が集い、「共創・創発」を意識した共同研究を実施する必要があります。あわせて、世界レベルの先進的・独創的な研究を引き続き、推進していきます。

これまでの主な取り組み

新種



様々な動植物の新種を発見
(ヤクシマコモチイトゴケ)

恐竜化石



化石から太古の自然を探る
(丹波地域での発掘調査)

外来生物



研究成果を
外来生物駆除に活かす
(ヒアリ対策)

もっと！
ひとはく
チャレンジ

「現場」を熟知する
人材と連携



国内外の様々な
研究者と共創・創発



取
り
今
組
後
の
例

- 分野横断型共同研究の推進
- 多様な主体と連携した「共創・創発型研究」の推進
- 持続可能な社会の実現に係る諸課題の解決に向けた研究の推進
- 世界レベルの先進的・独創的な研究の推進
- 標本ベースの自然史研究の推進および支援

標本・資料

新技術で標本の情報を
みんなに届ける！

ひとはくはこれまで、標本・資料の「収集・整理・保管」に重点をおいてきました。今後は高度化したデジタル技術を活用し、貴重な標本・資料を劣化させることなく公開・活用することにも注力していきます。また、標本のDNAを新技術で保存し、未来に継承することにも挑戦します。

これまでの主な取り組み

標本コレクション



収蔵点数は約200万点！
(ひとはく収蔵庫)

ホロタイプ標本



世界でひとつ
「基準」となる貴重な標本
(モロハサウルスの下あご)

自然環境情報



標本データを活用し
生き物の分布を「見える化」
(自然環境モノグラフ)

もっと！
ひとはく
チャレンジ

AIを活用した
植物標本のデジタル化



新技術を用いた
標本DNAの保存・活用



取
り
今
組
後
の
例

- 標本のデジタル・アーカイブ化(高精細画像と3D・CTデータ)
- 標本DNAの保存・活用

もっと詳しく

ひとはく 将来ビジョン 2032



ひとはくは
こんな博物館を目指します！



みんなと共に、地域と共に

—— ひょうごの自然・環境・文化の多様性を守り、育む社会を目指して ——

リアルなモノ・コト・ヒトとの
触れ合いに基づく多様な学びを
すべての人に提供する博物館

社会のデジタル化が進む中、
実物・実体験・対面コミュニケーションに基づく
豊かで深い学びを提供します。

自然・環境・文化を
継承する担い手の活動を
支援する博物館

持続可能な社会の実現のため、これまでの
パートナーに加え、経済・産業界とも
協働していきます。

自然・環境・文化と
身近な暮らしをつなぐ博物館

地域学習の機会を提供し、
「身近な自然とふれあう」ことで実現する
新しい暮らしを提示します。

自然・環境・文化の継承に
資する先導的・独創的な
研究・シンクタンク活動を行う
博物館

共創・創発型の研究に取り組むとともに、
研究成果を応用した社会実装などを
積極的に進めます。

標本・資料の持つ価値を
すべての人とひらく博物館

膨大な数の標本・資料を入びとに「ひらく」ことで、
多様な視点からの利活用を進め、
その価値をより大きく広げます。

ひとはくは活動の領域を
さらに広げていきます！

2032
40th

新たにチャレンジする活動

標本のデジタル・アーカイブ化

ダイバーシティ&インクルージョン

キャパシティビルディング

地域伴走型アウトリーチ

先実践型シンクタンク

共創・創発型研究

2022
30th

積極的に取り組んできた活動

国際交流

地域づくり

生涯学習支援

担い手育成

アウトリーチ

演示

SDGs

被災地支援

1992
open

ひとはくの基本8機能

学術交流

普及教育

データバンク

シンクタンク

ジーンバンク

展示

調査研究

標本・資料・情報収集



ひとはくヒストリー

- 1992 ● 人と自然の博物館 開館 [写真1]
- 1993 ● 生物多様性条約発効
- 1995 ● 阪神・淡路大震災
- 1997 ● 開館5周年記念行事 開催
- 2001 ● 「人と自然の博物館の新展開」を策定
- 2002 ● 開館10周年記念行事 開催
- 2005 ● 京都議定書発効
- 2007 ● 新たな「人と自然の博物館基本構想」を策定
- 2008 ● 新たな「人と自然の博物館基本計画」を策定
- 2011 ● 東日本大震災
- 2012 ● 開館20周年記念行事 開催
移動博物館車「ゆめはく」始動 [写真2]
「ひとはく将来ビジョン」を策定
- 2017 ● 開館25周年記念行事 開催
- 2019 ● 元号が令和に改元
- 2020 ● 新型コロナウイルス感染症のパンデミック
- 2022 ● 開館30周年記念行事 開催
新収蔵庫棟「コレクションナリウム」開館 [写真3]
- 2023 ● 「ひとはく将来ビジョン 2032」を策定

